

私達は「森と人をつなぐ」をモットーに、森づくり支援や自然体験活動支援等を行っている団体です。令和6年度、5月に起きた南陽市秋葉山の山林火災を受け、火災後の様子や植生の変化を知る観察会を10月に行いました。今回はその報告書をお届けします。ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。来年度以降も継続して実施しますので、興味のある方はぜひご参加ください。団体の個別対応も可能です。

○秋葉山山林火災について○

2024年5月5日火災発生、5月12日鎮火

137ha 焼損（県内では最大規模の焼失面積）

空気が乾燥しており、雨も小雨程度で中々鎮火に到りませんでしたが、消防署、消防団、自衛隊による消火活動により消火されました。消火活動に携わった皆様、ありがとうございました！

○10月27日観察会を開催○

・当日の流れ

9:00 宮内中学校駐車場集合（参加人数：スタッフ、参加者含め24名）

あらかじめ参加者の希望をとり、登頂班と植生調査班に分かれて登山を開始

12:00～12:30 各班の目的を達成し、駐車場へ帰着。

13:00～14:30 ワトワセンターにてスライドで火災後の様子（6月、8月）を紹介、消防署より山林火災等に関する講話を行っていただきました。



登頂班…ふもとから、山頂までの様子を見ながら登りました。森林インストラクターが植物等のガイドをしながらの登山です。霧が濃く、なかなか晴れませんが雲海も見ることができました。

植生調査班…植物の遷移（火災後の樹木の生存状況やどのような植物が生えてくるか）を調査、記録することを目的に登山しました。



↑ガイドの案内を聞きながらの登山です。焼損した樹木に生えるキノコ、フラス（昆虫が木に穴を開けた時に出る木くずやフン）なども見ながら歩きました。



↑セミのぬけがらを発見。地面は深くまで燃えなかったため羽化することができたようです。生命の強さを感じます。



←朝ドラ「らんまん」のモデルとなった牧野富太郎先生の名前のついた地上部は春に焼失しましたが、地下茎から芽を出し、本来開花時期ではない秋に咲いたようです。

→お忙しい中講話いただきありがとうございました！

消防署より、火災の燃え方、消火活動時の協力体制、消火にあたったヘリコプター、もし林野火災を発見したら？



防災で特に気を付けて欲しいこと、等をお話いただきました。

大変勉強になりました。

皆さん、災害時に避難指示が出たら、「ここは大丈夫・・・」と油断せず、早めに避難しましょう！

○植生調査報告○

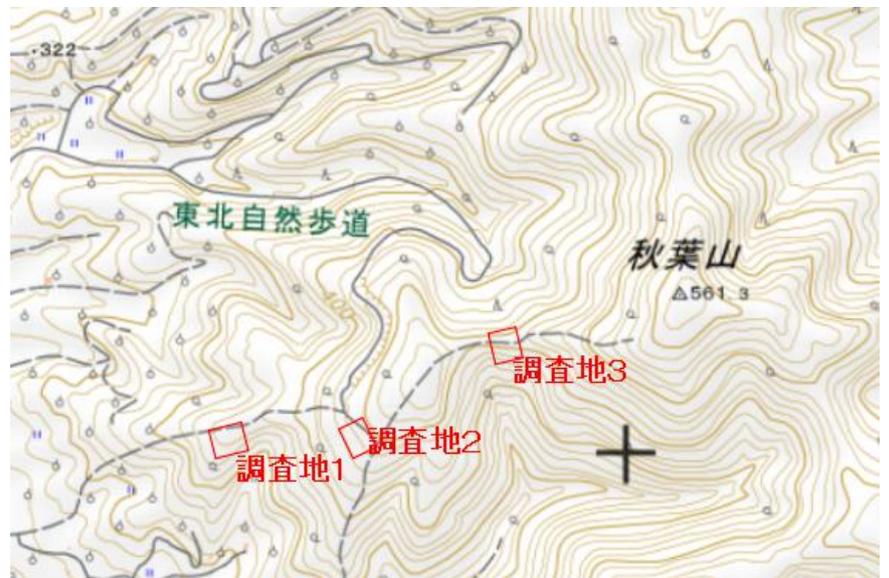
10m×10mの調査区（1～3）を3か所とり、当日は2箇所を調査しました。

※1か所は10月21日の下見の際に調査を行いました。

調査方法：10m×10mの調査地1、2、3を設け、中高木は毎木調査を行い、樹高（目視）、胸高直径を計り、生木か枯死木を目視で判断しました。2m以下の低木、草本については種類と本数を、多数のものは被度（葉が地面を覆っている割合）を確認しました。

調査結果：

【調査地1：平坦な場所で植林された杉林】



調査地1：中高木層

	本数(本)	枯死木(本)	生木(本)	平均直径(cm)	平均樹高(cm)	直径分布(cm)	樹高分布(cm)
スギ	29	19	10	10.4	8.1	3-25	8-15
アカマツ	11	4	7	18.0	12.6	8-26	3-15
計	40	23	17	12.5	9.4	3-26	3-15

樹木は全て焼けていましたが、上部は緑の葉がついているものが見られました。

調査地 1：草本～低木層 種名、本数（本）を多い順に記載
 リョウブ（205）、ハイイヌツゲ（38）、ワラビ（35）、ヤマウルシ（13）、ナラ類（6）、コシアブラ（5）、シダ類（5）、タムシバ（4）、ツツジ類（1）タラノキ（1）、サルトリイバラ（1）、スギ（1）
 林床は地面が露出している部分が多いですが、リョウブを始めとした草木が芽吹いていました。

【調査地 2：山小屋付近の平坦な場所の雑木林】



荒地に育つ「パイオニア（先駆植物）」

火災や皆伐後に真っ先に生える草木を「パイオニア（先駆植物）」と呼びます。
 秋葉山では地中に生き残った根や芽、種子から発芽した草木が生育を始めました。
 里山に多いリョウブやヤマウルシ、山菜でおなじみのワラビ、コシアブラ、タラノキは荒地にも育つパイオニア的植物です。



調査地 2：中高木層

	本数(本)	枯死木(本)	生木(本)	平均直径(cm)	平均樹高(cm)	直径分布(cm)	樹高分布(cm)
アカマツ	7	7	0	18.6	11.7	14-22	8-16
スギ	3	3	0	12.7	8.0	6-18	5-13
ミズナラ	9	9	0	11.1	6.7	6-22	4-10
合計	19	19	0	14.1	8.7	6-22	4-16

調査地 2：草本～低木層 種名、本数（本）を多い順に記載
 ワラビ（被度約 20%）、リョウブ（136）、ハイイヌツゲ（98）、ヤマハギ（19）、ミズナラ（16）、サルトリイバラ（10）、ハギ（9）、ヤマウルシ（8）、アオダモ（5）、カンバ類（3）、コナラ（3）、マルバマンサク（2）、アカマツ（1）、ツツジ類（1）、トネリコ（1）、ナツハゼ（1）、ヌルデ（1）、ホオノキ（1）、ヤナギ類（1）
 他、焼損した灌木類 146 本（樹種不明）、ススキ 5 株が確認されました。

中～高木層は全て枯死していますが、草本～低木層は調査地 1 より種数が多く、林床が茂っていました。

【調査地 3：馬の背部分で尾根の登山道の両側に 5 m ずつ。左右は斜面で、写真右側（南面）は高木のない灌木林。】
 北面は火が回ってない部分もあります。

火は上に延焼する性質があるので反対の斜面までは燃えなかったようです。
 火災では上昇気流が発生するので飛び火による延焼も起こります。



調査地 3 : 中高木層

	本数(本)	枯死(本)	生木(本)	平均直径(cm)	平均樹高(cm)	直径分布(cm)	樹高分布(cm)
アカマツ	5	3	2	13.6	4.2	8-22	2-6
ミズナラ	2	0	2	6	4	6	4
合計	7	3	4	11.4	4.1	8-22	2-6

調査地 3 : 草本～低木層 種名、本数(本)を多い順に記載

ミズナラ(73)、リョウブ(68)、ハイイヌツゲ(57)、ヤマウルシ(14)、タムシバ(14)、ツツジ類(12)、マルバマンサク(10)、ナツハゼ(4)、樹種不明(4)、ヤマハギ(3)、ミヤマガマズミ(3)、コナラ(2)、ヌルデ(1)、クリ(1)

他、焼損した灌木 235 本、ワラビ(被度約 10%)が確認されました。

【調査結果と考察】

どの調査地も土壌の焼損は浅く、地中の根や埋土種子からの発芽があったと思われます。

今回、生木であった木もほとんどが焼損ダメージを受けているため、今後、生き残っていくことができるのか経過を観察していきたいです。

焼損した樹木は多くが虫の食害を受けており、増加した虫が分散することで周囲への影響も懸念される。

今後も継続的調査を行い、変化の様子を記録していきたいです。

！秋葉山へ登られる方へ！

火災により倒木、落枝等の危険が高くなっています。登山の際は十分注意して登山ください。

NPO 法人 美しいやまがた森林活動支援センター

美しいやまがた森林活動支援センターでは一緒に活動して頂ける仲間、支援して下さる仲間を随時募集しております。(賛助会員:年会費 3000 円) HP、SNS 等よりお気軽にご連絡ください。

次回の秋葉山観察会は 2025 年 6 月上旬予定!

別途、団体様の個別案内もいたします。学習会等でご活用ください。出張クラフト体験等も行っています。

HP (<http://www2.jan.ne.jp/~moridon/>)



Facebook (<https://www.facebook.com/forest.yamagata>)



公式 LINE (もりどんかわらばん) <https://lin.ee/SolX4nq>

